



個人投資家の皆様へ

会社説明資料

株式会社アンビスホールディングス

2021年8月30日

1 医心館事業概要

2 2021年9月期第3四半期決算概況

3 中長期目標の実現に向けて

- 新型コロナウイルス感染症が再拡大する中、稼働率は高水準を維持し、入居者数は1,460人（6月末）まで増加
 - ✓ 入居者よりも多い1,521名の医療従事者を確保し、強固な医療体制を整備
- 21年2月に当社初の新型コロナウイルス感染者（従業員1名）が発生して以降、複数拠点で新型コロナウイルス感染者が発生
- 但し、各拠点にて標準感染予防策（スタンダード・プリコーション）に基づく医療・ケアサービスの提供と、疑わしい事例は全例リスク評価した上で隔離対策（N95マスク使用、自主的な抗原検査など）を実施することで2次感染まででとどめ、3次感染は引き起こしていない状況
 - ✓ 2次感染：最初に感染した人から他の人に感染すること
 - ✓ 3次感染：2次感染者から他の人に感染すること
- また、新型コロナ感染者が発生した拠点において、感染者が発生した時点で入居を停止するため入居者数は一時的に減少するものの、感染対策完了後すぐに回復する傾向にあり
 - ✓ 医療機関との長期的かつ強固な信頼関係は継続し、医療依存度の高い患者の受け皿として機能

Amvis 2023目標

施設数 / 定員数

60施設 / 2,892名
(中長期目標 : 100施設 / 5,000名)

21年9月末 (予想) : 42施設 / 1,977名
20年9月末 (実績) : 29施設 / 1,270名

売上高

244億円
(中長期目標 : 450億円)

21年9月期 (予想) : 149億円
20年9月期 (実績) : 91億円

営業利益

51億円
(中長期目標 : 100億円)

21年9月期 (予想) : 33億円
20年9月期 (実績) : 18億円

当期純利益 年平均成長率

30%台後半
(中長期目標 : 20%台)

18年9月期 - 21年9月期 (予想) : 100%超

注 :

1. Amvis 2023目標は2020年11月に公表した数値から変更なし

1

社会課題に支えられた新たな成長市場の確立

- ✓ 病院完結型から地域完結型医療へと変わりゆく時代の、民間発の慢性期・終末期医療のインフラ
- ✓ 患者・地域社会・医療関係者の3者全てに利益をもたらす社会課題解決型事業

2

蓄積された運営ノウハウを背景とした高い参入障壁の確立

- ✓ 医師機能のアウトソーシングによる看護師中心の在宅型の“病床”のような医療施設の運営体制を確立
- ✓ 大きな需要がある首都圏だけではなく、参入障壁が高い地方都市への展開に成功

3

強靱なキャッシュ創出力に裏打ちされた高成長・高収益型ビジネスモデルの進化

- ✓ 厳選された開設計画及び高い営業力に基づいた開設後の早期稼働率上昇及び早期黒字化
- ✓ 高い採用力、運営力に基づいた既存施設の高水準の稼働率維持及び稼働率に応じた人員管理



1. 医心館事業概要

経営ミッション

志とビジョンある医療・介護で社会を元気に幸せに

仕組みのイノベーションにより、直面する社会（医療）課題を解決

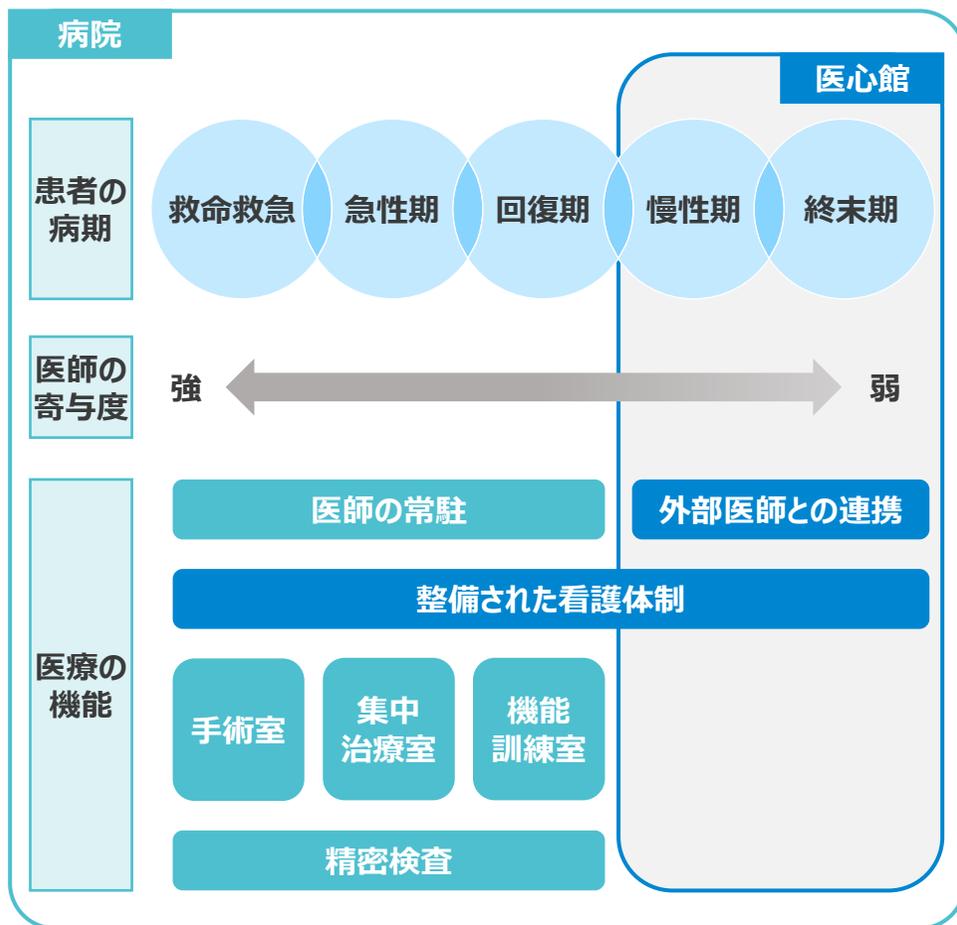
事業ミッション

地域医療の強化・再生

慢性期・終末期の看護・介護ケアに特化したホスピス「医心館」を運営し、
医療依存度が高い方々の受け皿を提供

- 医心館は、医師の機能を外部の主治医にアウトソーシングすることで、高度な看護ケアに注力した在宅型の“病床”のような新奇な医療施設
- 既存の制度（有料老人ホーム事業、訪問看護・介護事業、居宅介護支援事業）に基づいた事業

コンセプト



主な特徴

人員体制	<ul style="list-style-type: none"> • 入居者とほぼ同数の看護師・介護士を配置し、手厚い看護・介護体制を構築 • 医師等はアウトソーシング
主な入居対象者	<ul style="list-style-type: none"> • 慢性期・終末期の患者 <ul style="list-style-type: none"> ➢ がん終末期の方、人工呼吸器装着・気管切開や特定疾患難病の方 ➢ 入退院を繰り返す方、看取り対応の方
医療関係者との信頼・協力関係	<ul style="list-style-type: none"> • 医療依存度の高い患者の受入先となり、複数の医療機関からの信頼を獲得 • 主治医とは、資本関係なしに協力関係を構築（医療やケアの透明性の担保）

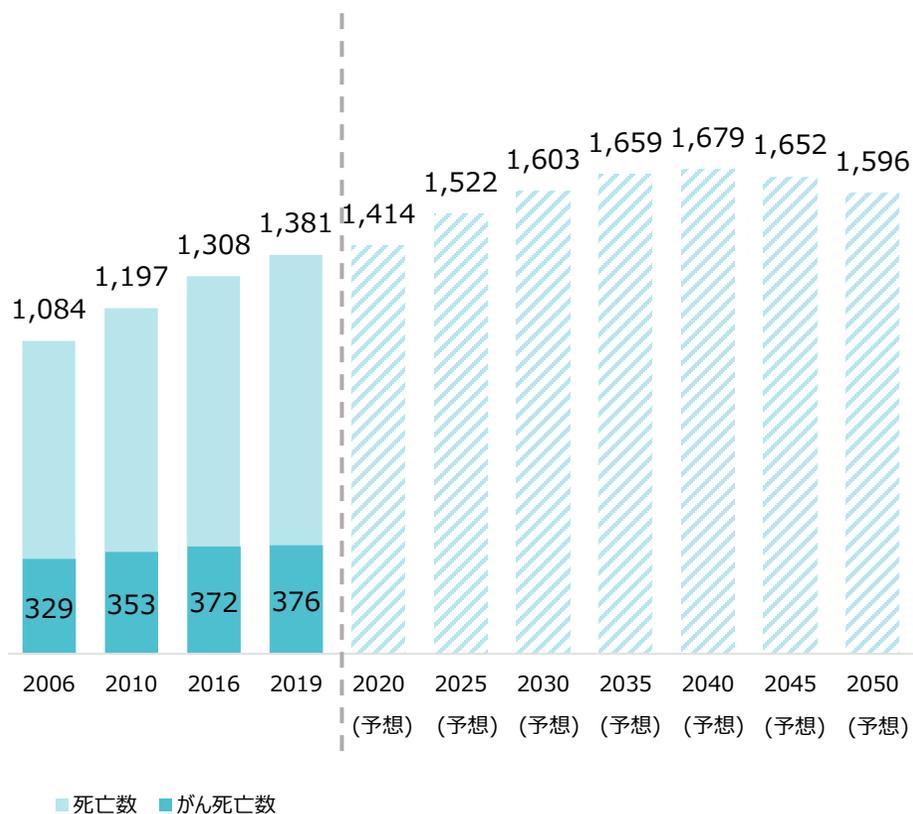
収益構造（三階建構造）

医療保険売上高	<ul style="list-style-type: none"> • 医療保険による訪問看護サービス • 売上高の約6割を占める
介護保険売上高	<ul style="list-style-type: none"> • 要介護度・地域区分により単位数が異なる • 売上高の約3割を占める
家賃・管理費実費売上高	<ul style="list-style-type: none"> • 入居一時金なし • 食費、医療用消耗品等含む

- 少子高齢多死社会が到来し、年間140万人（がんは40万人）が亡くなる時代に入
- 病院完結型から地域完結型医療へと政策転換が進むなか、病院死数は2005年頃をピークに低下し施設死シフトが進行

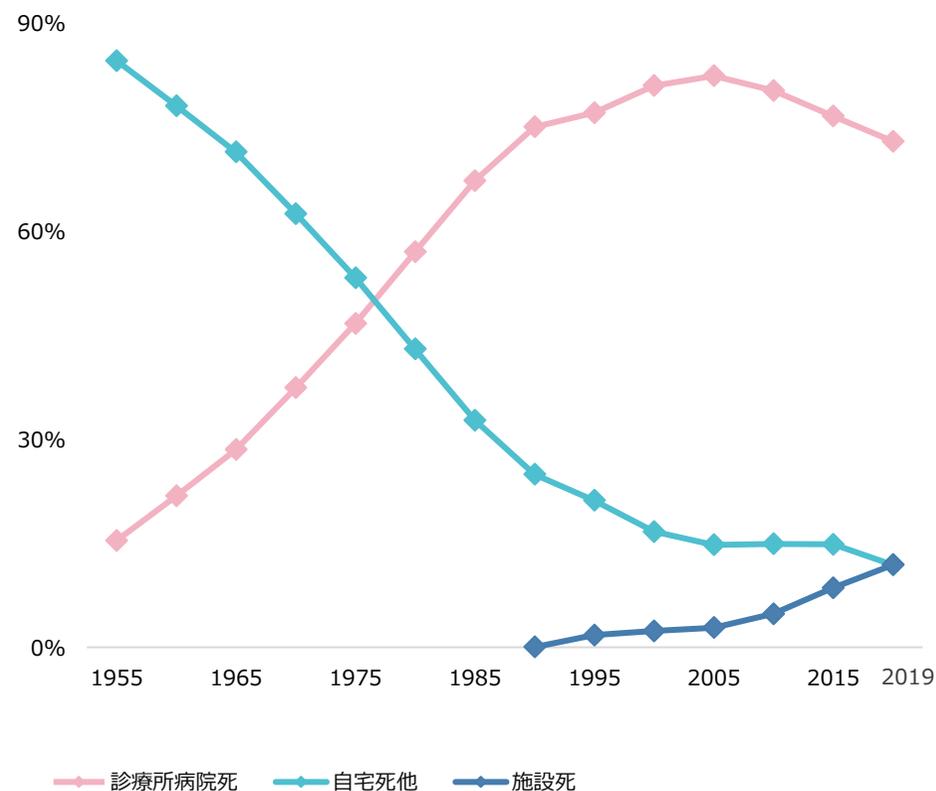
死亡数（全体・がん）の推移

(千人)



死亡場所（構成比）の推移

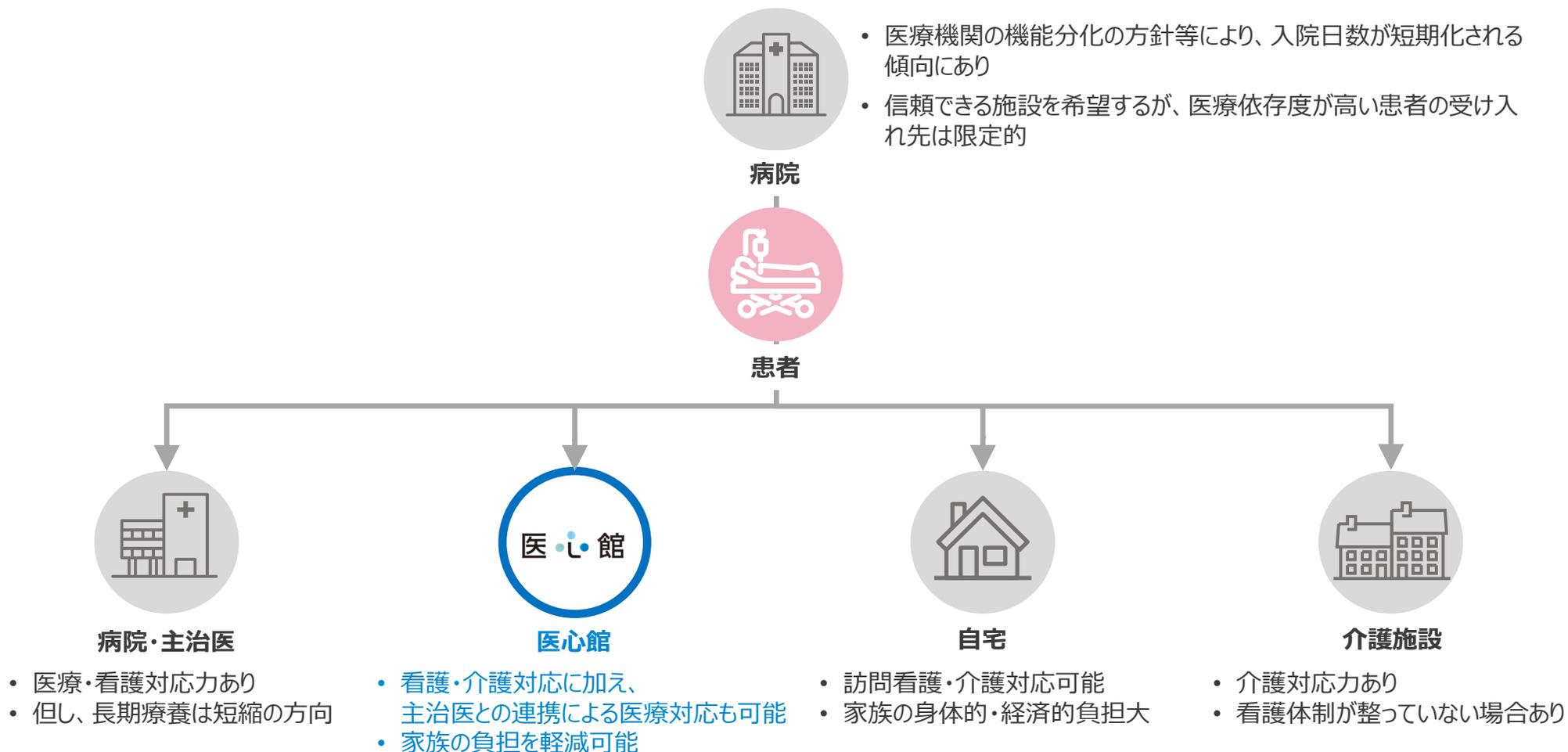
(%)



出所：厚生労働省 人口動態統計、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果（日本における外国人を含む）

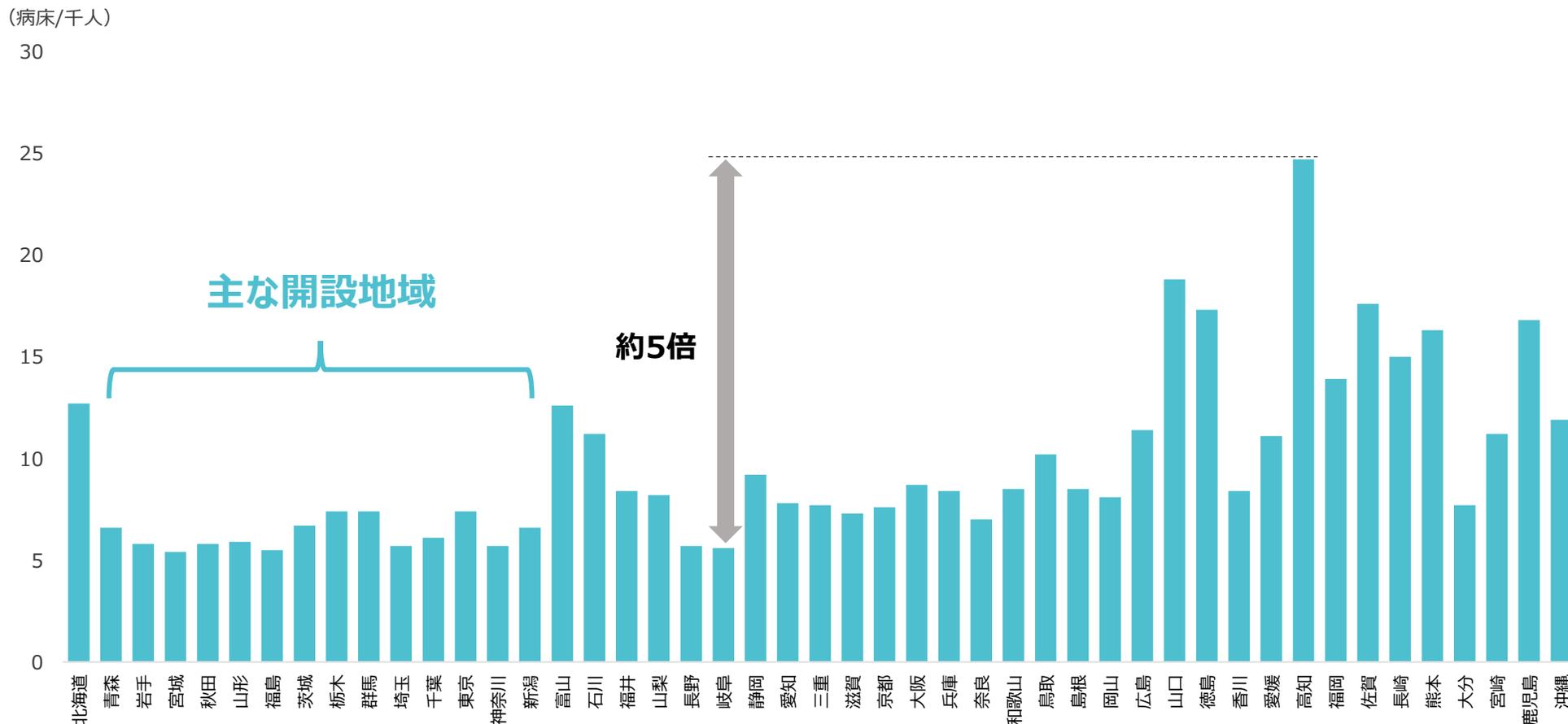
- 病院の入院日数短縮と在宅復帰政策が進むなか、医療依存度が高く受入先のない慢性期・終末期の方々の受皿として機能することで、地域医療・地域社会に大きく貢献

退院後の患者の受け入れ先



- 高齢者人口当たりの療養病床は、医師数や他の病床数同様、西高東低の傾向であることを踏まえ、医療資源が相対的に少ない首都圏・東日本中心に展開
- 入念な現地調査を行い、地域の医療ニーズの穴を探り当て、必要とされる場所に必要な役割の医心館を開設

65歳以上人口当たりの地域別療養病床分布

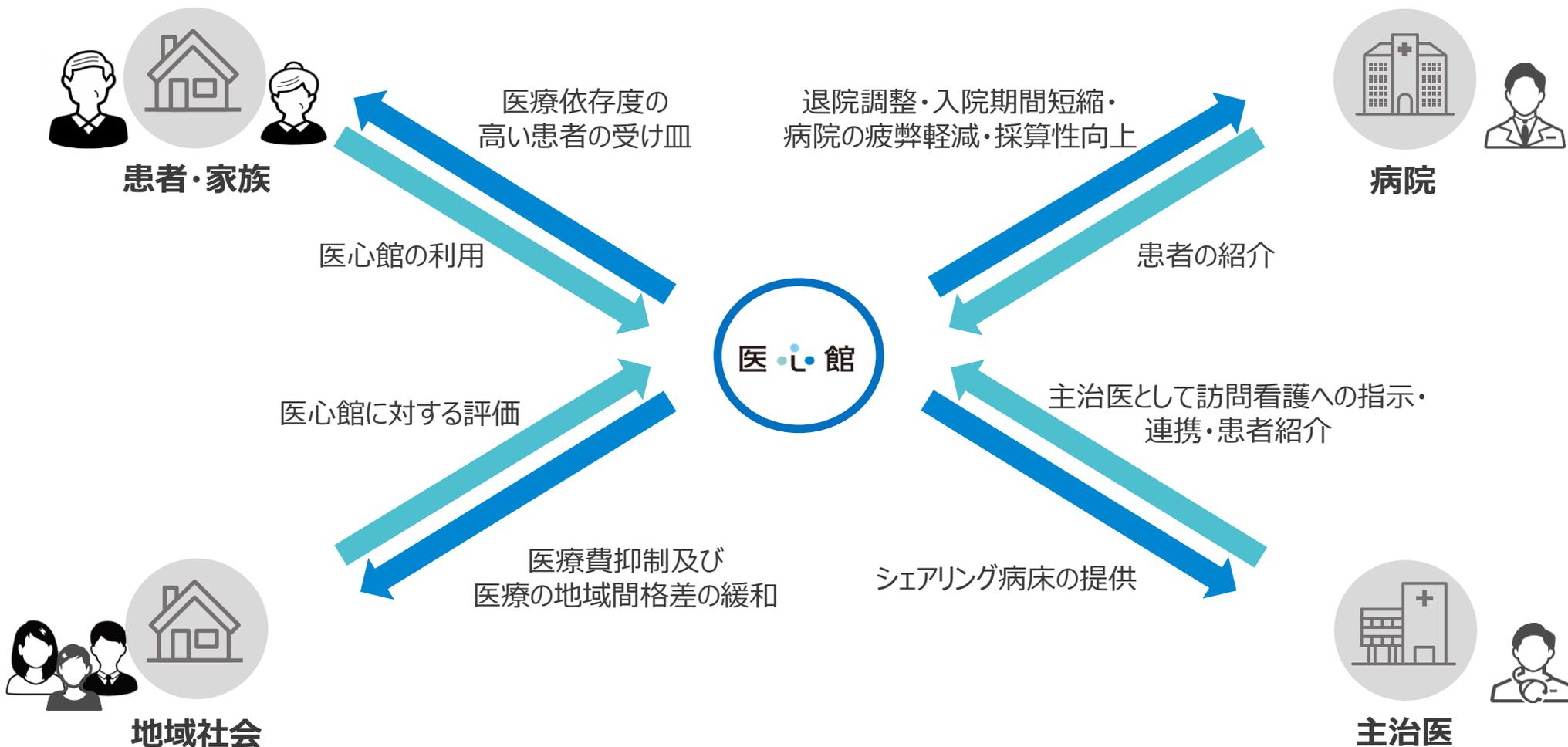


出所：総務省「人口推計」、厚生労働省「医療施設調査」2019年10月

プラットフォームとしての医心館

- 患者・地域社会・医療関係者の3者全てに利益をもたらす社会課題解決型事業
- 地域ごとの医療ニーズに対応することで、地域医療に欠かせないプラットフォームになることを企図

地域医療を支えるプラットフォームとしての医心館





2. 2021年9月期第3四半期決算概況

21年9月期通期業績予想の上方修正

(第3四半期累計実績) 営業利益

25.1億円

(修正後予想対比進捗率 : 75.0%)

(第3四半期累計実績) 当期純利益

18.0億円

(修正後予想対比進捗率 : 75.5%)

(上方修正後通期予想) 営業利益

33.5億円

(修正前予想対比 : +7.3億円)

(上方修正後通期予想) 当期純利益

23.9億円

(修正前予想対比 : +5.3億円)

- 既存施設の稼働率が上半期に続き、安定稼働の目安である80~85%を上回る過去最高水準（87.8%）で推移し、新規施設の立ち上がりも順調であることを踏まえ、第3四半期累計の業績は修正前予想対比順調に推移
 - ✓ 売上高：107.2億円（修正前予想対比進捗率74.4%）
 - ✓ 営業利益：25.1億円（修正前予想対比進捗率96.0%）
 - ✓ 当期純利益：18.0億円（修正前予想対比進捗率97.3%）
- 第3四半期までの業績の上振れを織り込み、21年9月期通期業績予想を2月1日公表の修正予想から更に上方修正
 - ✓ 今期開設施設の立ち上がりが順調であること及び稼働率に合わせた人員管理が大きく寄与
- 第3四半期までの新規開設は、計画通り12施設の開設及び1施設の増床を実施し、21年6月末時点において、41施設（定員1,925名）を運営
 - ✓ 21年9月期：7月に福島県に開設し、施設数は42施設（定員1,977名）で着地予定。第4四半期は、新規開設を1施設（福島）に限定し、運営体制の強化充実に注力する方針
 - ✓ 22年9月期：既に11施設の開設を公表し、3ヶ年計画で掲げている年間10施設程度の開設目安を達成。今後も開設確定次第、順次公表予定
- 新型コロナ禍においても、感染者数を最小限に抑え、看護師中心の強固な医療体制を整備することで医療依存度の高い患者の受け皿として地域完結型医療の実現に向けて微力ながら貢献
 - ✓ 新規開設の難易度が高い地方の開設を積極的に進め、東北地方全域において施設を展開することに成功

注：

当期より控除対象外消費税等の会計処理に係る会計方針を変更したため、次頁以降の20年9月期の財務数値は当該会計方針の変更を遡及適用
詳細は、21年9月期第3四半期決算短信添付資料「2.四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」を参照

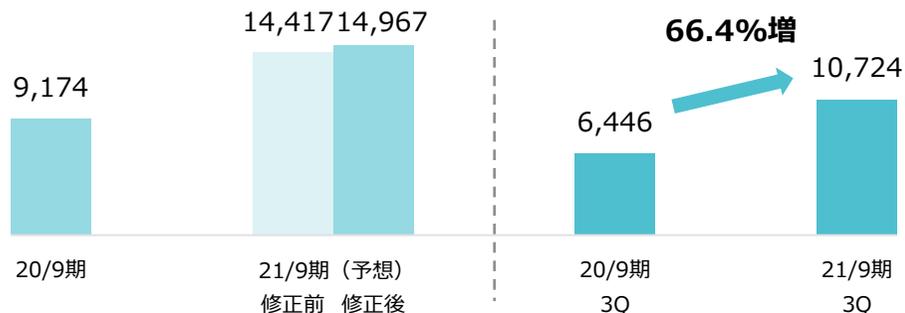
第3四半期実績及び通期予想に対する進捗

- 前年同期末以降、定員数は約1.7倍増加し、売上高も比例して大幅に増加
- また、新型コロナ対策を踏まえた増員体制を敷きつつ、稼働率に合わせた人員管理の結果、確りと利益を確保し、営業利益及び当期純利益は前年同期比で倍増

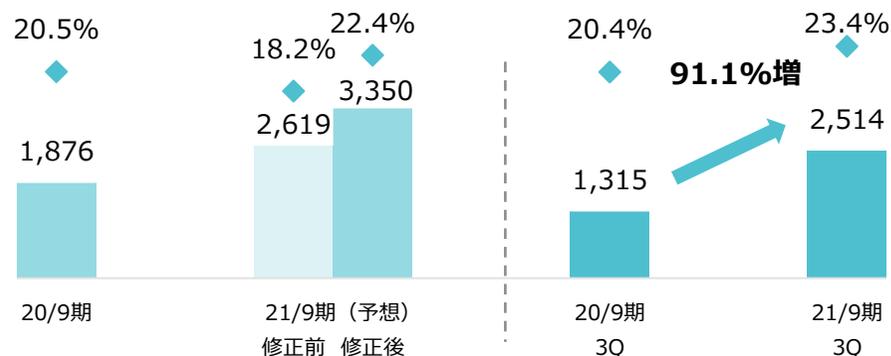
第3四半期実績及び通期予想に対する進捗

売上高

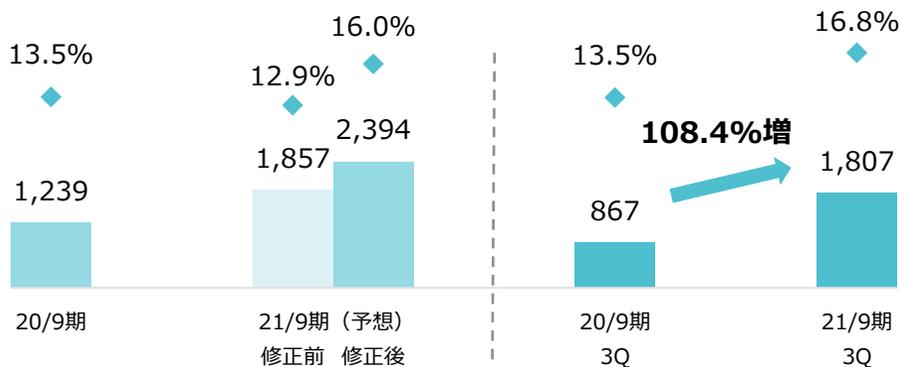
(百万円 / %)



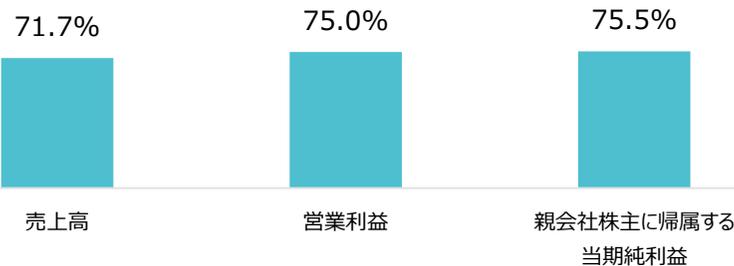
営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



修正後予想対比進捗率



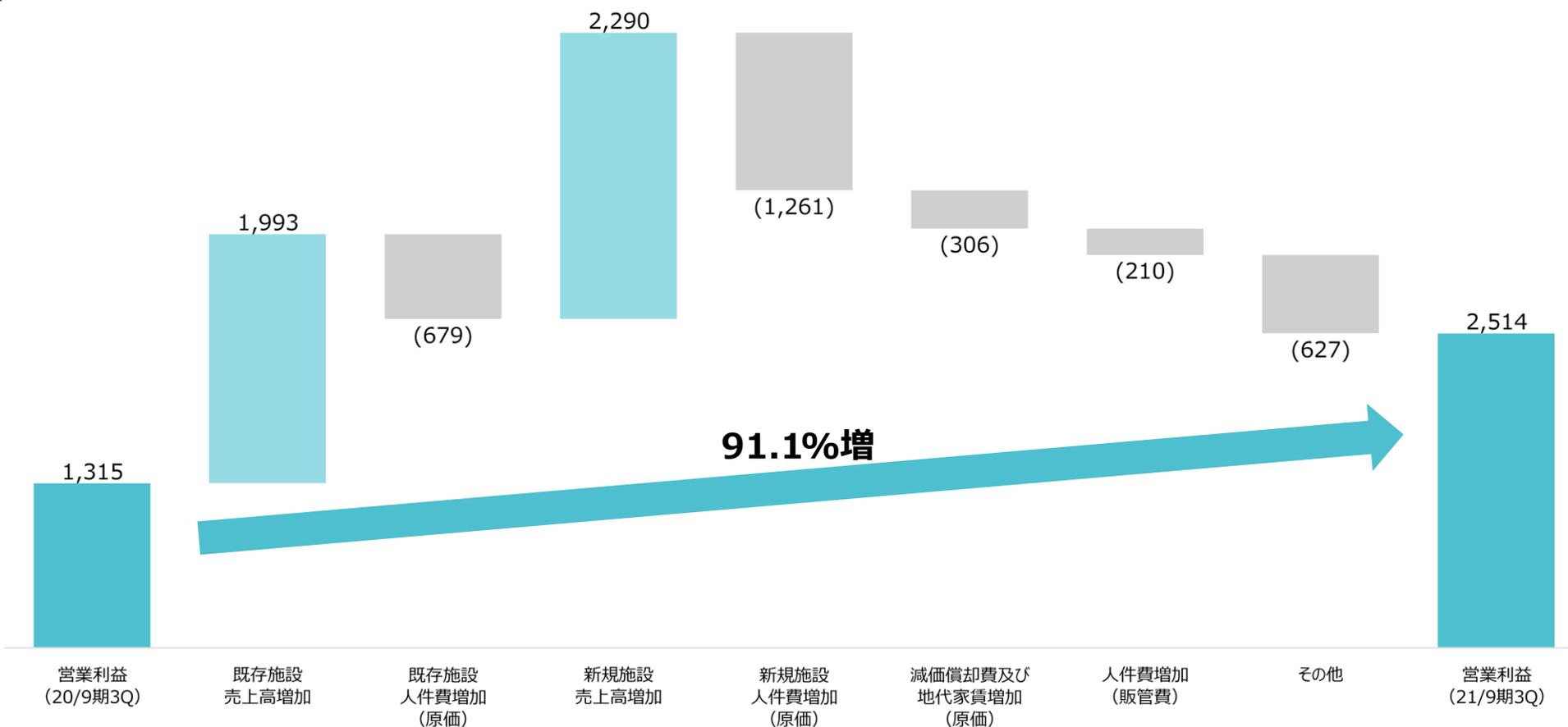
◆ : 売上高比

第3四半期業績 – 営業利益推移

- 既存施設は安定稼働の目安（80～85%）を上回る87.8%で推移し、新規施設の稼働率（50%～55%）⁽¹⁾も引き続き順調に推移
- 施設数・定員数の増加に伴い、営業利益は比例して増加（20年6月末：26施設、21年6月末：41施設）

営業利益推移（20年9月期第3四半期 – 21年9月期第3四半期）

(百万円)



注：

1. 新規施設：20/9期第3四半期末にて未開設の施設（後頁同様） / 稼働率：中央値（6月末時点）

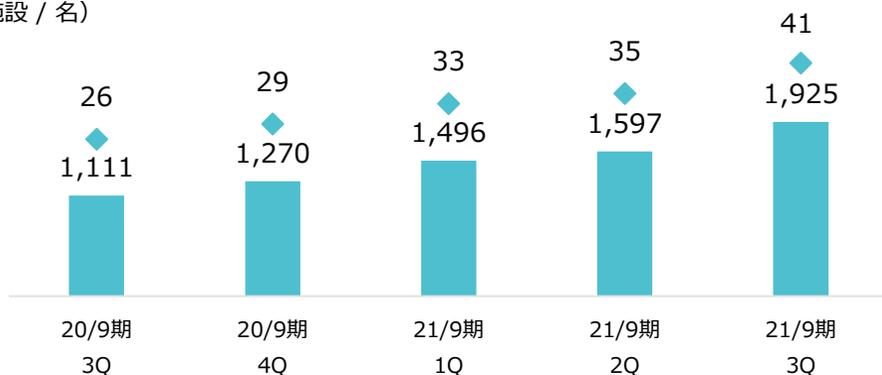
四半期業績推移 – 主要財務指標

- 施設数・定員数の増加に伴い売上高は順調に推移し、四半期営業利益は初の10億円に到達
- 新型コロナ対策を継続しつつも、適切な人員管理を含めた運営体制の強化により、高水準の利益率を維持

直近1年間四半期業績推移

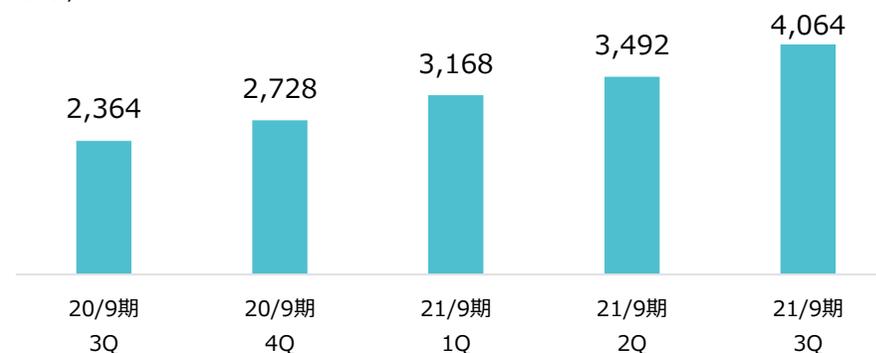
施設数 / 定員数

(施設 / 名)

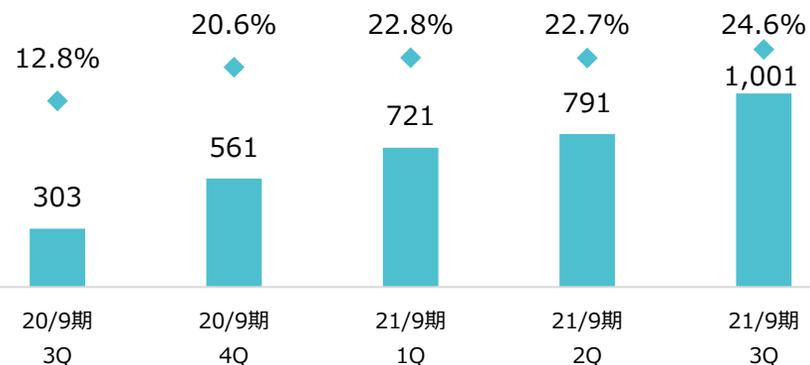


売上高

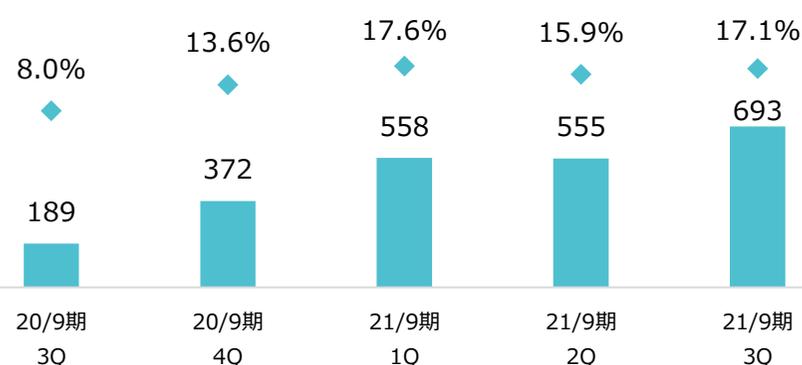
(百万円 / %)



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益

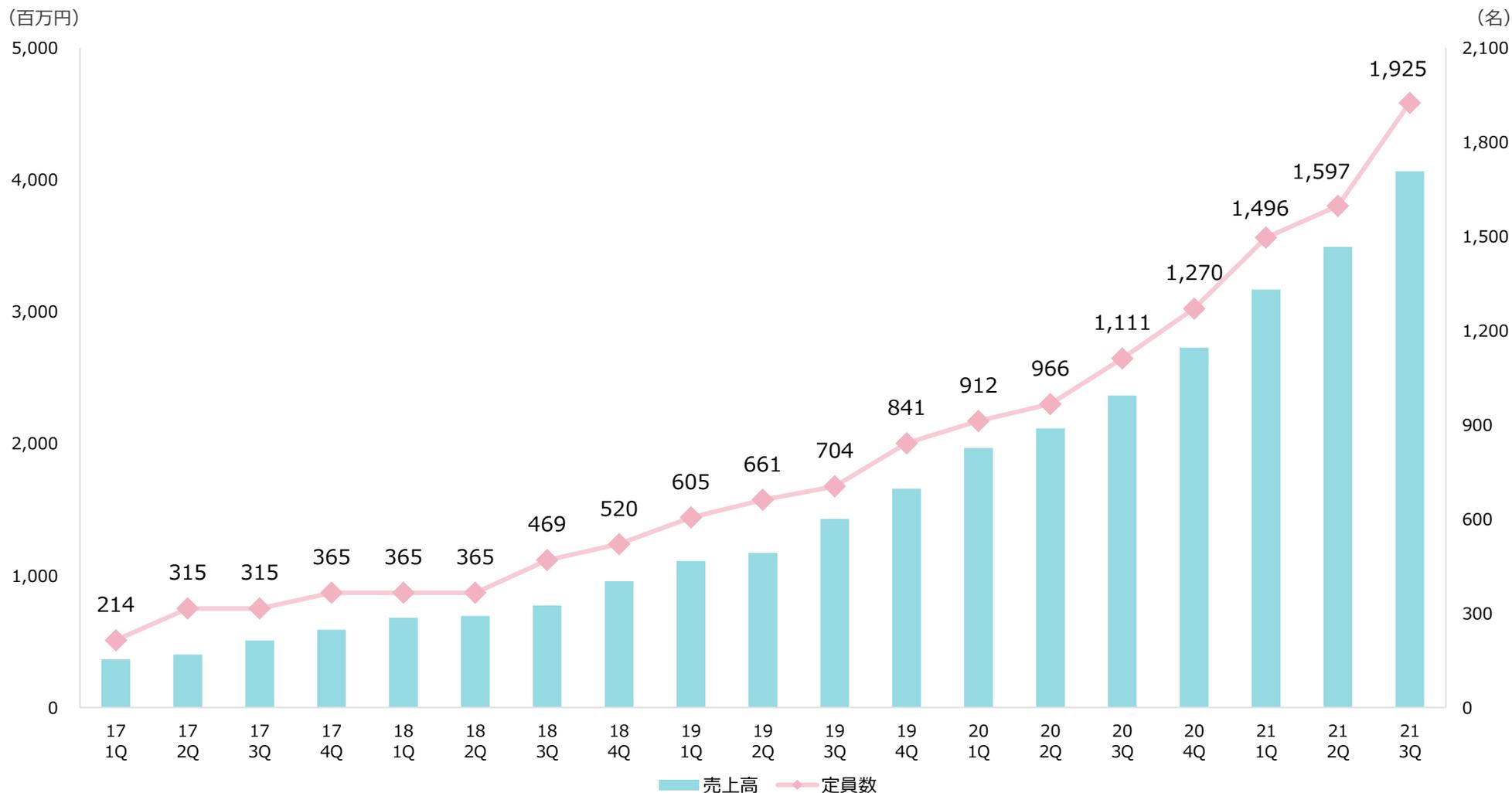


◆ : 売上高比



3. 中長期目標の実現に向けて

アンビスHD成長の軌跡

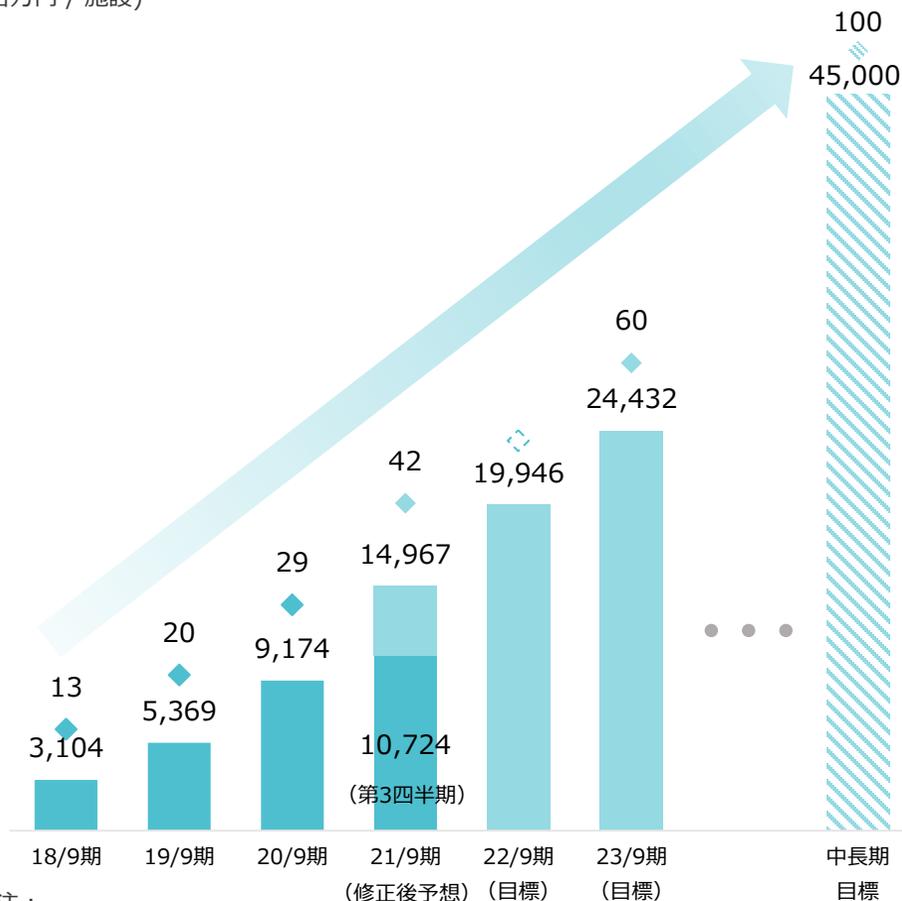


Amvis 2023 – 売上高 / 営業利益

- 売上高 / 営業利益は、過年度同様、順調に推移し、23年9月期まで高成長を維持・加速予定
- 新型コロナ禍においても、中長期目標を早期に実現するべく、運営体制の強化充実に注力

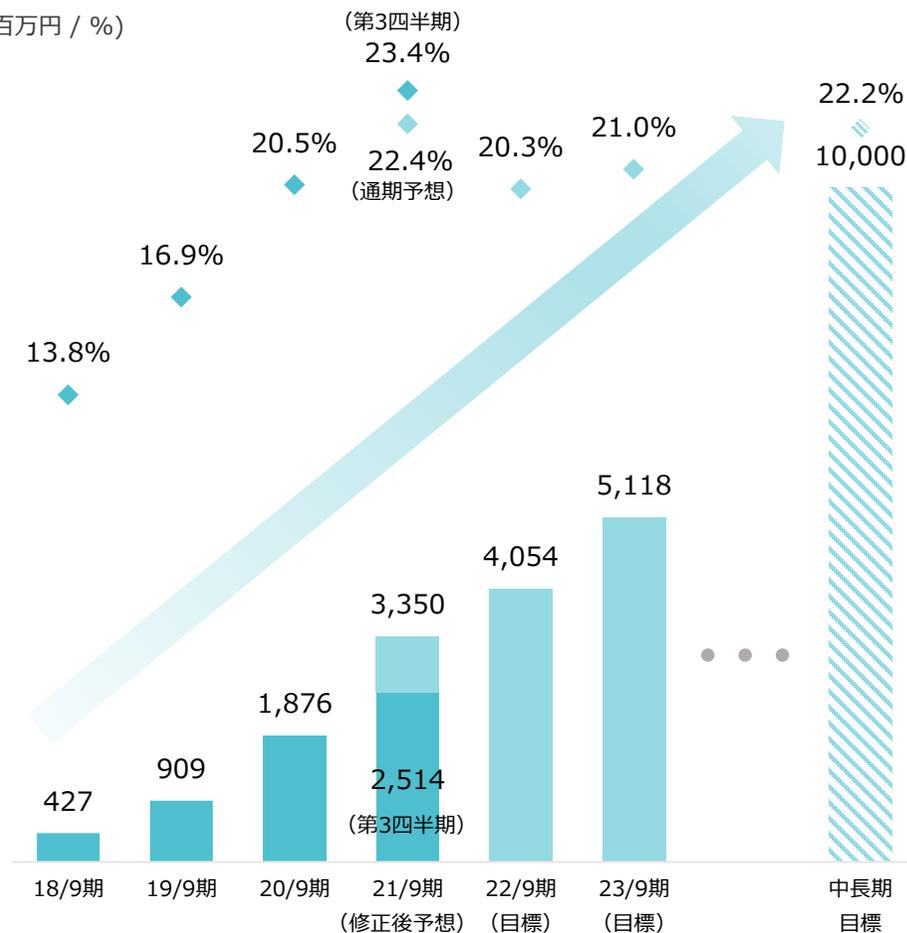
売上高 / 施設数の推移

(百万円 / 施設)



営業利益 / 営業利益率の推移

(百万円 / %)



注：

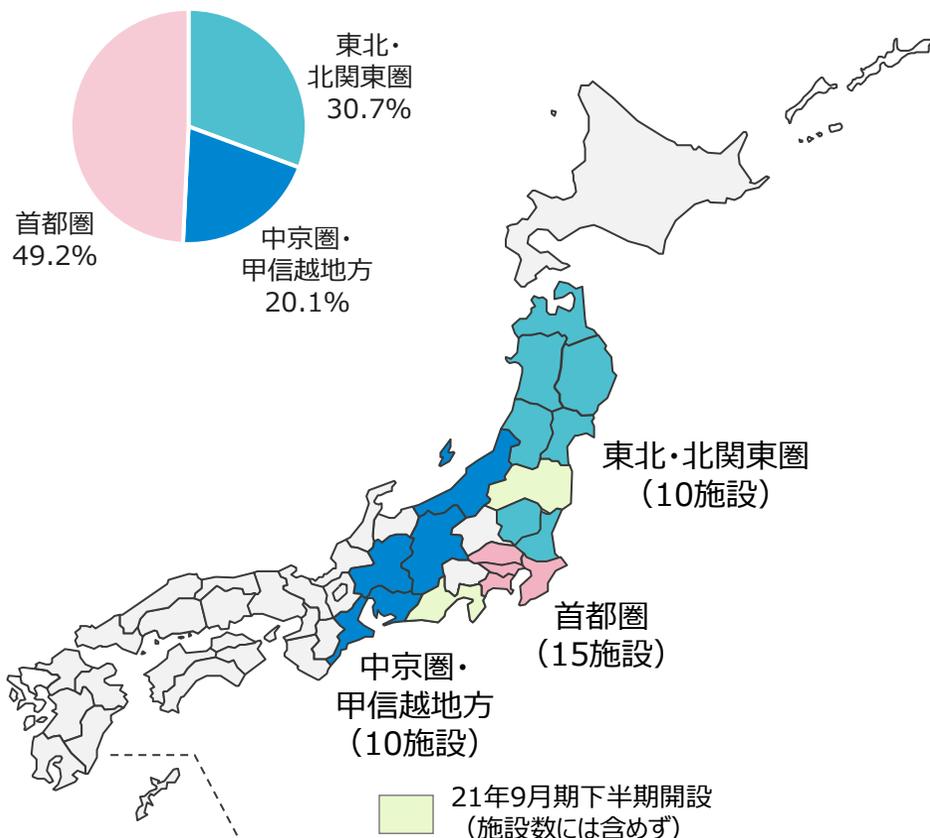
1. 22/9期、23/9期 (目標) は2020年11月に公表した数値から変更なし

開設戦略 – 展開地域の拡大及びドミナント展開の加速

- 21年9月期は長野県、千葉県、秋田県、静岡県、福島県に新規進出
- 今後も未進出地域への展開を積極的に進めるとともに、埼玉県、千葉県、東京都含む首都圏において神奈川県と同様にドミナント展開を加速

展開地域の拡大

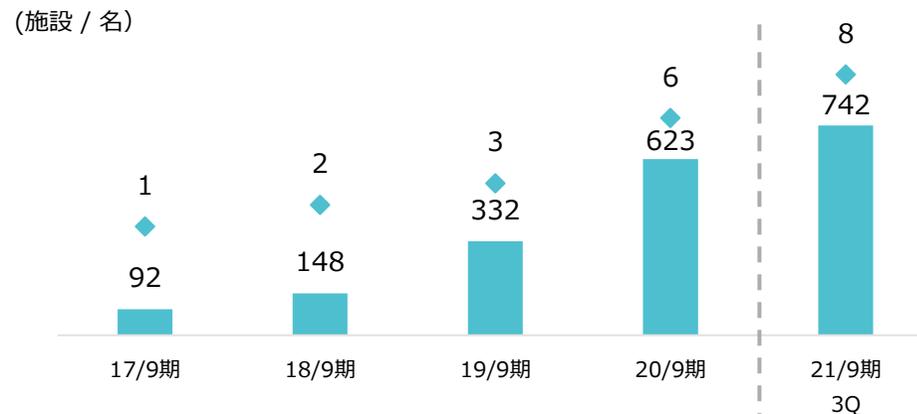
売上高（21年9月期上半期）



ドミナント展開の加速（神奈川県）



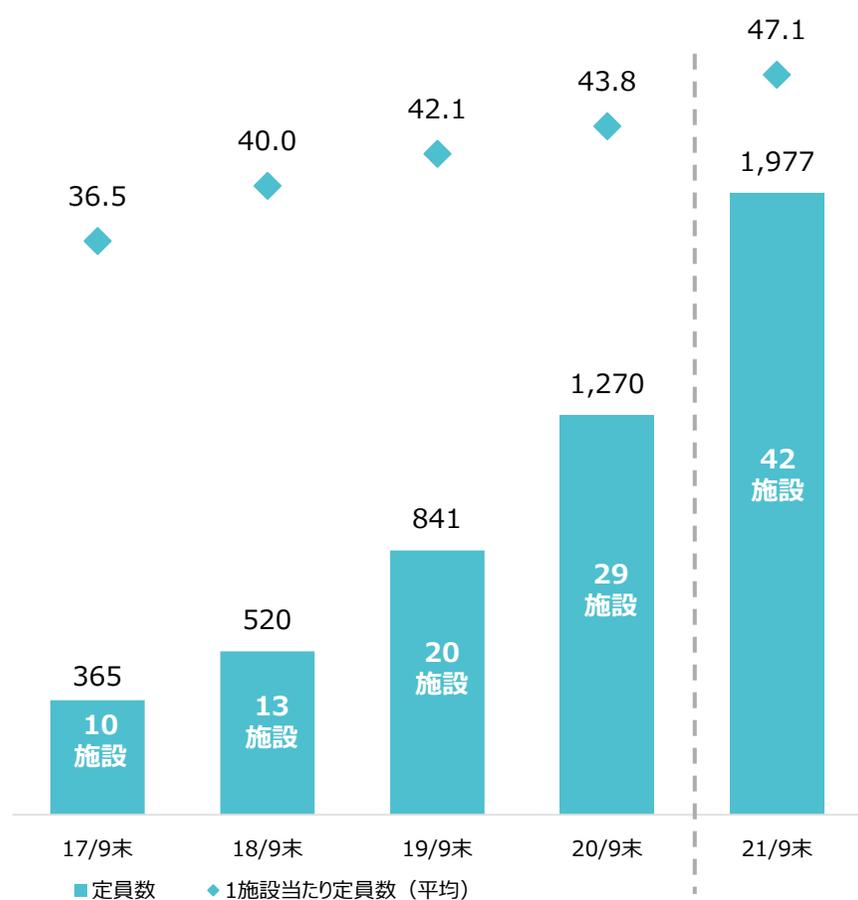
施設数 / 新規入居者数の推移（神奈川県）



- 営業力及び運営力の向上により、1施設当たりの定員数を拡大
- 終末期の入居者が多いため、安定稼働の目安は引き続き稼働率80~85%として設定

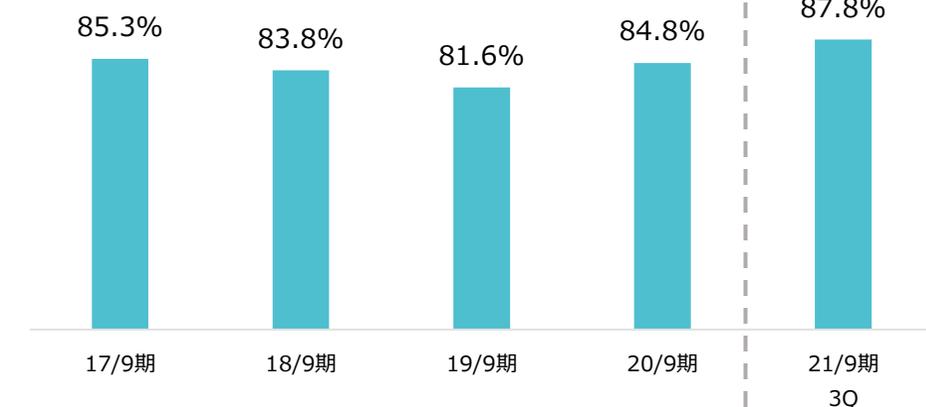
施設数・定員数の推移

(名)



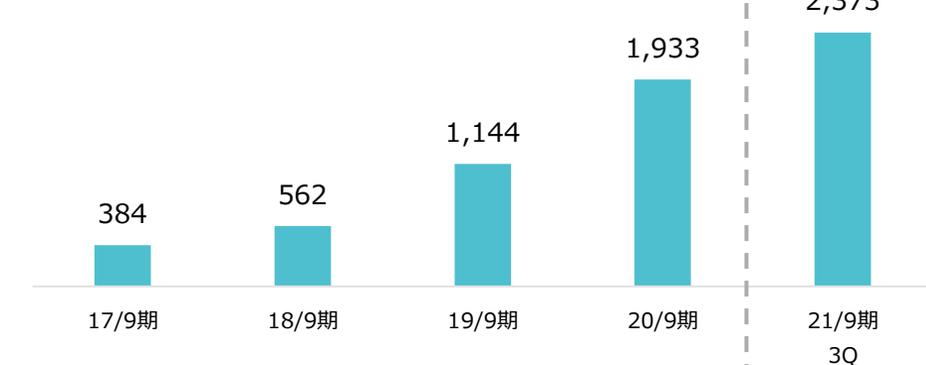
(既存施設) 稼働率の推移

(%)



新規入居者数の推移

(名)



- 新規開設の約2年前から市場調査、案件調査含め入念に検討した上で開設を決定
- 開設後、稼働率に応じた人員管理を行うことで4~6ヶ月で単月黒字化、10~12ヶ月で累積黒字化を実現

案件発掘～開設

～2年前：開設候補地域の市場調査開始

- 医療圏、人口動態、医療資源を踏まえたホスピスの需要調査
- 地域病院、往診医との信頼関係を構築

2年前～1年前：土地・建物の案件調査

- 立地・面積・運営動線・開設方式・投資額等の条件をもとに判断
- 入居・採用調査を踏まえ、開設地を決定

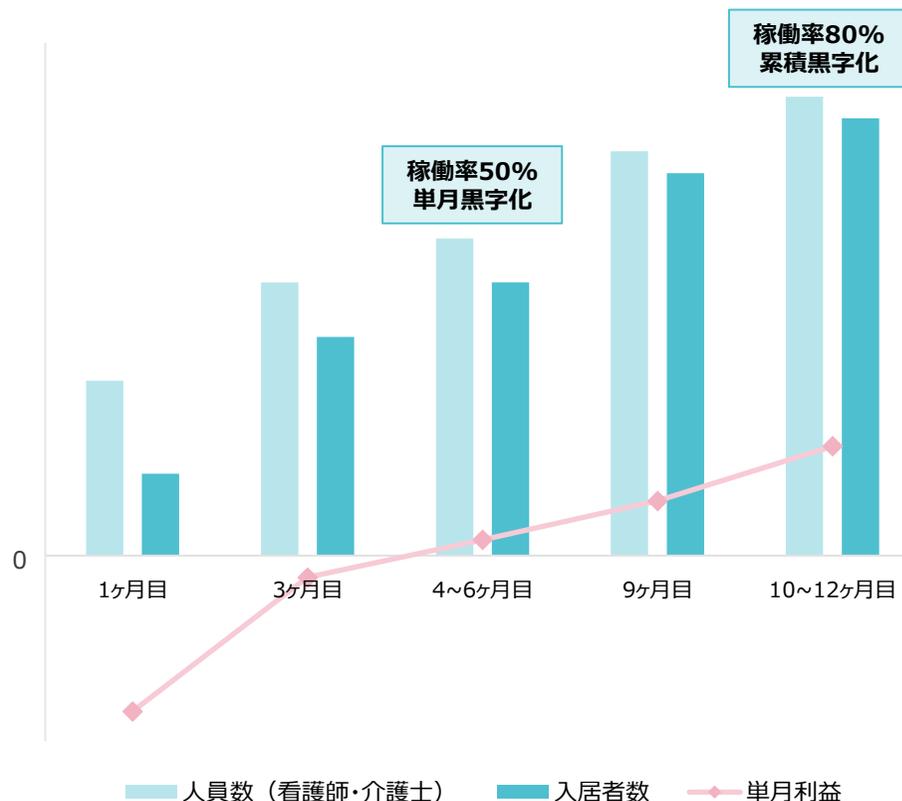
1年前～6ヶ月前：開設リリース / 建築工事開始

- 開設の確度が高まった段階で開設の決定をリリース
- リリース後、開設に向けて採用開始

3ヶ月前～：開設前営業活動開始

- 地域病院への本格的な営業を強化し、入居促進を開始
- 本社・他施設からの応援要員と連携し、開設に向けて準備

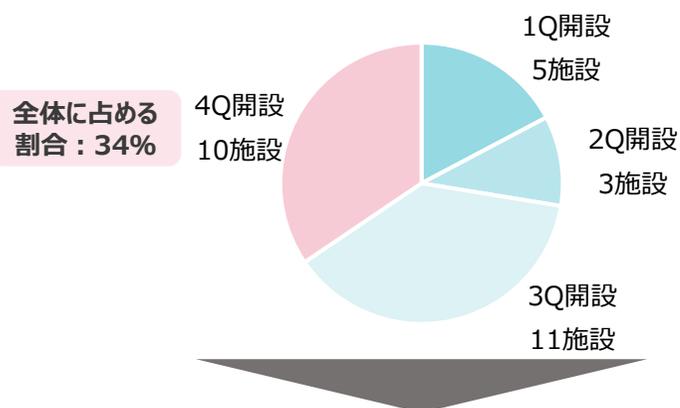
開設～安定稼働（ベースケース）



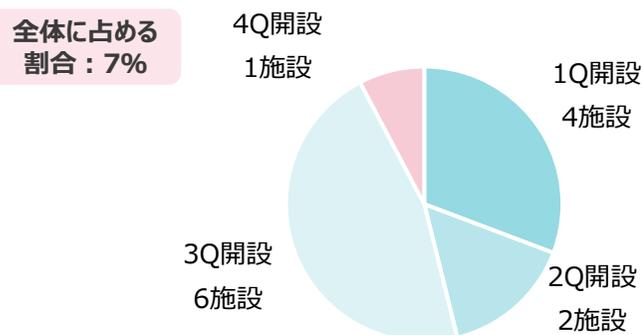
- 今後は、新規開設は第3四半期までに集中させ、第4四半期は運営体制の強化充実に注力する方針
- 各施設に施設長は置かず、本社に看護介護部を設置し本社集約体制を敷くことでケアの質を維持・改善

開設時期の変更

20年9月期以前（開設数：29施設）



21年9月期（開設数：13施設）



運営体制の強化充実にに関する具体的施策

本社集約体制

- 各施設において、看護師・介護士が入居者に対するケアに専念できる体制を構築
- 主なコーポレート機能である、営業、売上管理、採用、人財管理、物品管理等は全て本社に集約し、各施設に施設長は置かない方針で運営

看護介護部設置

- 本社に設置された看護介護部が、各施設が確り運営できるように指示・教育・調整を実施
- 訪問看護のリーダーの業務支援、運営マニュアル作成、新規入職者のオリエンテーション、新規開設支援、シフト管理等、幅広い分野で各施設をサポート

新型コロナ対策

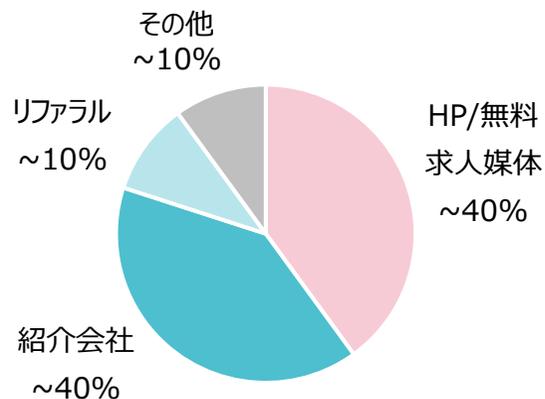
- 新型コロナ対策に詳しい看護師からなる「感染対策本部」のリーダーシップのもと、全施設の職員・入居者に対して、一括して指示・教育し、標準感染予防策（スタンダード・プリコーション）を徹底

採用戦略 – 看護師・介護士の厳選採用

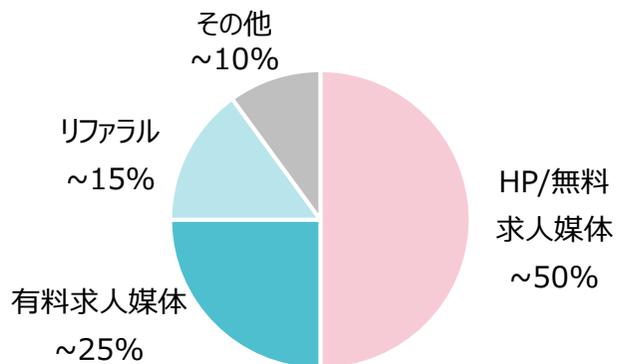
- 看護師は地方都市中心に引き続き紹介会社を利用するが、介護士は紹介会社を利用しない採用体制の構築に成功。また、看護師及び介護士ともに派遣会社は利用せず
- 特に、看護師は即戦力となる拠点病院での勤務経験者を中心に、内定率は25%程度と厳選採用を実施

職種別採用経路

看護師

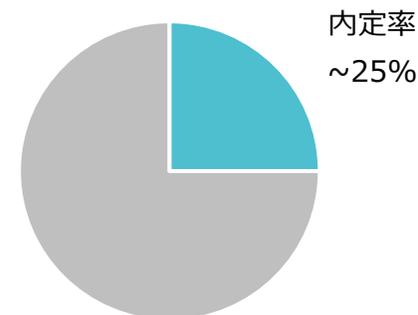


介護士

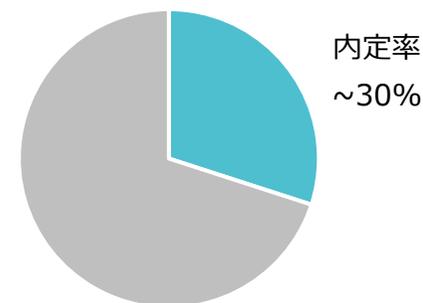


職種別内定率

看護師



介護士



本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、当該記述のために、一定の前提を使用しています。当該記述または前提は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ございますが、詳細は、当社の決算短信、有価証券報告書をご参照下さい。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

【お問い合わせ先】

株式会社アンビスホールディングス IR課

電話：03-6262-5085 / Email：ir_contact@amvis.co.jp